

三重大学血液内科 学術研究に関するお知らせ

(初版 2017年2月27日作成)

「CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫における遺伝子発現解析と 遺伝子変異の検討」に関するお知らせ

わたしたちの体はDNA情報のもとでRNAという物質を介して、蛋白質が作られることで制御されています。がんは、本来正常な細胞のDNAやRNAといった遺伝子が傷つくことで、異常をきたすことから発生することがわかっています。これら遺伝子の発現や蛋白発現については体の中の細胞によって異なることが知られており、がん細胞においても、その性格を示す特徴的な遺伝子の発現様式や蛋白発現が存在します。このことをがん細胞において詳しく調べることにより、その治療の反応性や予後などをより詳しく知る情報が得られたり、新しい治療法を見出す手がかりが得られたりする可能性があります。この研究は、悪性リンパ腫のなかの「CD5陽性びまん性大細胞性B細胞リンパ腫リンパ腫」を解析し、がん細胞のもつDNAやRNA、蛋白質を調査、測定し、治療効果や予後を予測できるマーカーを見つけ出すことを目的としています。現時点では治療効果を治療前に予測することはできませんが、本研究の結果によって治療開始前に治療効果が予測できるようになれば、より有効な治療法を選択することができるようになると考えています。

研究の内容、方法について

この研究では今回の研究では、CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に罹患された患者さんのうち、特定の化学療法(Dose-adjusted EPOCH-R/HD-MTX療法)を受けられた方を主に対象とさせていただいております。試料の提供はリンパ腫の診断を行った際、もしくは診療の経過中に採取した生検組織、血液、骨髄などの一部を使用させていただきます。これらの組織は医療機関において保存されている組織を使用させていただくため、研究のために新たに提供頂くわけではありません。そのため組織や血液を提供いただくにあたり、新たな費用負担や採血検査などの身体的負担は一切ありません。この腫瘍組織から取り出した遺伝子(DNA、RNA)蛋白質に関してそれらにどのような変化が見られるのか調べます。

本研究によって直接あなたに有益な情報をもたらす可能性は極めて低いと考えられます。一方、遺伝的な素因を明らかにする研究ではありませんので、研究の結果重大な病気の関連が見つかる可能性についてはほとんどありません。本研究の成果は学会や学術論文として公表され、基本的には個人名との照合はいたしません。ただし、患者さんの希望があれば、結果公表後にお伝えすることは可能です。この研究は日本医療研究開発機構(AMED)研究費「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する

治療研究」の支援をうけています。

この研究の内容および方法は、各参加施設の倫理委員会での厳正な審査の結果承認が得られ、実施について当学医学系研究科長の承認を得ています。ご自分のデータをこの研究に使用してほしくないとお考えの患者さんは、次ページの連絡先までご連絡をお願い申し上げます。データの使用にあたっては、患者さんおよびご家族に診療上の不利益などが一切生じないように、以下のことを厳守いたします。

- 医学研究以外には使用しない
- 患者さんおよびご家族の氏名は公表しない。個人情報厳密に守秘する。
- 研究結果は学会、研究会、学術論文以外では発表しない
- いつでも同意は撤回可能であり、それによって患者さんに不利益を及ぼすことはない

研究期間

研究期間：2016年4月から2023年3月末日まで

連絡先、この研究の研究代表者

- 1) 当院の研究責任医師：山口 素子
三重大学医学部附属病院 血液内科 講師
〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174番地
Tel: 059-231-5418 Fax: 059-231-5419
- 2) 研究責任医師：大島 孝一
久留米大学大学院医学系研究科病理学(2) 教授
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67
(TEL) 0942-37-7547 (FAX) 0942-31-0342